日赤愛知名古屋第二病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

専門研修基幹施設である、**日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院（以下“日赤愛知名古屋第二病院”）**は、救命救急センターを有し多くの救急患者を受け入れている。多様な救急疾患や外傷患者の診療を行う中で、麻酔科医が果たす役割は非常に重要な部分を担っている。初期対応後の安定化処置、緊急手術の術前、術中管理を行うだけで無く、当院のICU は、麻酔科医が主として管理する semi-closed ICU(general ICU、PICU)であり、術後管理だけでなく、院外、院内からの内科系、外科系を問わず重症患者の治療を行っている。

本プログラムでは基幹施設のこのような特性を生かし、周術期の麻酔管理や、救急、集中治療領域における管理に十分経験を積み、論理的にかつ粘り強く対応できる能力を備えた麻酔科専門医を育成することを目標の１つにしている。

また、そのような環境ではどうしても心身に無理な負荷をかけがちだが、医師人生を健康に過ごせるように、自己の心身を大切にする生活ができるようにサポートする。

専門研修プログラムの運営方針

- 研修の初年度は専門研修基幹施設である、日赤愛知名古屋第二病院で研修を行い、その間の約2ヶ月間は救急科で救急診療の研修を行う。
- 研修の 2 年度以降に専門研修連携施設での研修を行う、研修先と期間は各専攻医の希望を考慮し決定する、トータルで 6 ヶ月から 1 年間程度となるようにローテーションを組む。
- 集中治療専門医を目指す専攻医に対しては、希望があれば、4 年度において 6 ヶ月間の ICU 専従期間を設ける。
- 当院のみで必要な特殊麻酔症例は、ほぼ経験できるが、その際に研修内容・進行状況を鑑みて、徐々に難度の高い症例が経験できるようにしている。また，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，計画的にローテーションを構築する。

研修実施計画例

年間ローテーション表

<table>
<tr><th></th><th>初年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>4年度</th></tr>
<tr><td>4月</td><td rowspan="4">日赤名古屋第二</td><td rowspan="6">日赤名古屋第二</td><td rowspan="6">大学病院
または
小児病院等</td><td rowspan="12">日赤名古屋第二</td></tr>
<tr><td>5月</td></tr>
<tr><td>6月</td></tr>
<tr><td>7月</td></tr>
<tr><td>8月</td><td rowspan="2">日赤名古屋第二
救急部</td></tr>
<tr><td>9月</td></tr>
<tr><td>10月</td><td rowspan="6">日赤名古屋第二</td><td rowspan="6">日赤名古屋第二</td><td rowspan="6">日赤名古屋第二</td></tr>
<tr><td>11月</td></tr>
<tr><td>12月</td></tr>
<tr><td>1月</td></tr>
<tr><td>2月</td></tr>
<tr><td>3月</td></tr>
</table>

週間予定表

日赤愛知名古屋第二病院ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	ICU	休み	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	ICU	休み	手術室	休み	休み
			当直				

日赤愛知名古屋第二病院　麻酔・集中治療科での症例検討会，勉強会など

- 麻酔症例カンファレンス（平日毎日朝）
- 他診療科を交えた ICU 入室患者のカンファレンス（毎日朝）
- 多職種による ICU 入室患者のカンファレンス（毎日）
- 科内での症例検討会
- 若手対象の勉強会
- 学会・研究会等への参加（積極的に参加、発表することを奨励。旅費の支給有り）
- 全職種対象施設内講習会
- 院内 BLS、ICLS などのコースにインストラクターとして参加
- 医療安全講座、感染対策講習会，臨床倫理講習会など e-learning を含め定期的に開催
- 自己学習の環境

  病院図書館は On line journal、On line textbook、UpToDate、など各種文献検索システムを介して、無料で閲覧、ダウンロードできる

研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

【日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院】

研修実施責任者: 寺澤　篤

専門研修指導医:

棚橋　順治	（麻酔、集中治療、緩和、ペインクリニック）
寺澤　篤	（麻酔、集中治療）
平手　博之	（麻酔、集中治療）
杉本　憲治	（麻酔、集中治療、国際救援）
田口　学	（麻酔、心臓血管麻酔、集中治療）
古田　敬亮	（麻酔、集中治療）
井上　芳門	（麻酔、集中治療、国際救援）
村橋　一	（麻酔、集中治療、救急）
藤井　智章	（麻酔、心臓血管麻酔、集中治療）
濱田　一央	（麻酔、集中治療）
牧野　樹	（麻酔、集中治療）
森川　彰大	（麻酔、集中治療）
奥田　馨都	（麻酔、集中治療）

麻酔科認定病院番号:632



—施設の特徴—:

1. 麻酔・集中治療科の常勤医は 23 名在籍しています(うち専門研修医は 7 名です)。手術麻酔だけでなく、集中治療部を運営するために、人数は市中病院としては充実していますが、今後も増員する予定です。また、全身麻酔は、ほとんど全てを麻酔科医が行う体制になっています。外科系のほぼ全てのすべての科の手術があるため、専門医研修で必要とされている特殊症例の麻酔件数はすべて自院で経験可能になっています。また、脊椎手術や腎移植手術も多く経験できます。
2. General ICU, PICU を麻酔科医が主体になって管理しており(semi-closed ICU), 集中治療の研修が可能です。日本集中治療医学会の集中治療専門医研修施設でもあります。
3. 救命救急センターを有しており, 年間救急車受け入れ数は1万2千台以上と近隣諸施設の中でもトップクラスです。外傷や、その他各診療科の緊急手術や, 敗血症, 重症呼吸不全等 ICU での治療を必要とする重症救急患者の症例数も豊富であり、これらの症例の全身管理を行い、重症症例の対応を経験することになります。
4. 重症救急患者の緊急手術では, 救急外来または ICU での術前管理, 術中麻酔管理, ICU における術後全身管理を、一貫して学ぶことができます。
5. 日本心臓血管麻酔学会の心臓血管麻酔専門医認定施設であり, 成人の心臓・大血管手術の症例数も豊富で, JB-POT 合格者も多数輩出しています。
6. 総合周産期母子医療センターであり、重症の産科症例にも関わることになります。硬膜外(無痛)分娩も麻酔科が深く関わっています。
7. 日本赤十字社に所属する病院の大きな使命の一つとして、災害医療があります。当科の医師の中にも、当院の国際救援部を兼務して、国際赤十字委員会(ICRC)のミッションに参加した方がいます。国内救護では、当科だけでも 3 名が DMAT の隊員資格を保持しているなど、国内救護にも深く関わっています。
8. 麻酔・集中治療科は手術部、集中治療部の運営に深く関わっているため、病院全体の横断的な視点が必要になります。そのため、Infection control team(ICT), Nutrition support team(NST), Rapid response system(RRS), 緩和ケアチーム, 倫理コンサルテーションチームなどの活動の中心に、麻酔科医が参加しており、さまざまな視点から患者さんに関わることができるようになります。
9. 有給休暇や振替休日が取得しやすい環境を整えています。

② 専門研修連携施設

【名古屋市立大学病院】

名市大麻酔科ウェブサイト URL　http://www.ncu-masui.jp/
研修実施責任者：祖父江　和哉　　kensyu@ncu-masui.jp

専門研修指導医：祖父江　和哉　（麻酔，集中治療，いたみセンター）
田村　高廣　（麻酔，心臓麻酔，集中治療）
田中　基　（麻酔，周産期麻酔）
杉浦　健之　（麻酔，いたみセンター）
徐　　民恵　（麻酔，集中治療，いたみセンター）
田村　哲也　（麻酔，集中治療）
加藤　利奈　（麻酔，いたみセンター）
藤掛　数馬　（麻酔，集中治療，いたみセンター）
上村　友二　（麻酔，集中治療，周産期麻酔）
佐藤　範子　（麻酔，いたみセンター，周産期麻酔）
佐藤　玲子　（麻酔，いたみセンター）
横井　礼子　（麻酔，周産期麻酔）
青木　優佑　（麻酔，集中治療，周産期麻酔）
中井　俊宏　（麻酔，集中治療，救急医療）
牧野　佑斗　（麻酔，集中治療，周産期麻酔）
山添　大輝　（麻酔，集中治療，いたみセンター）
長谷川　達也　（麻酔，集中治療，周産期麻酔）
永井　梓　（麻酔，周産期麻酔）
吉村　真弓　（麻酔）
友成　毅　（麻酔，集中治療，いたみセンター）

麻酔科認定病院番号：55（1968 年　麻酔科認定病院取得）

―施設の特徴―
大学病院として高度先進医療を提供するとともに，名古屋都市圏の中核医療機関として地域医療に貢献している．教育熱心で様々な分野の専門性を持った指導医が多く在籍し，幅広い分野での研修環境が整っている.小児から成人まで豊富な症例があり,小児麻酔,心臓血管麻酔,超音波ガイド下神経ブロック,ハイリスク妊婦の周産期麻酔など幅広く研修できる.同時に,集中治療（closed-ICU, PICU）の研修を通して,麻酔から ICU までシームレスな管理を学ぶことができる.また、いたみセンター,無痛分娩センターにおいても,希望に応じて専門的な研修が可能である.その他,病院併設のシミュレーションセンターでは,年数回のハンズオン講習を実施しており,シミュレーターを用いた経食道エコーなどの練習が随時可能である。

【名古屋大学医学部附属病院】

研修実施責任者：秋山　浩一

専門研修指導医：秋山　浩一（麻酔、心臓血管麻酔）
荒川　陽子（麻酔）
柴田　康之（麻酔、ペインクリニック、区域麻酔）
鈴木　章悟（麻酔、集中治療）
浅野　市子（麻酔、ペインクリニック）
川瀬　宏和（麻酔、集中治療）
尾関　奏子（麻酔）
園部　奨太（麻酔、集中治療）
山根　光和（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）
安藤　貴宏（麻酔）
赤根　亜希子（麻酔）
平井　昂宏（麻酔、集中治療）
佐藤　威仁（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
米倉　寛（麻酔、集中治療）
駒場　智美（麻酔）
谷口　菜奈子（麻酔）
藤井　祐（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）
天野　靖大（麻酔）
三澤　知子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：38

―施設の特徴―

名古屋大学医学部附属病院麻酔科では、年間7,500件以上の麻酔管理症例を有しており、超低出生体重児から超高齢者まで、あらゆる年齢層・疾患に対応した高度な麻酔研修が可能です。

2025年度には、心臓血管外科727例、胸部外科537例、脳神経外科413例、帝王切開185例、6歳未満の小児472例の麻酔管理を実施しており、幅広い診療科にわたる多様な麻酔症例を経験できます。特に小児麻酔分野では、2013年に小児がん拠点病院に指定されて以降、小児外科、小児整形外科、小児脳神経外科などの小児がんに対する手術麻酔において豊富な実績を誇ります。2021年度からは小児へのDa Vinci手術も開始されており、高度な小児外科手術麻酔の研修も可能です。

産科麻酔では、母体合併症や胎児異常を有するハイリスク妊婦の帝王切開麻酔を多く担当しており、超緊急帝王切開では決定から30分以内の娩出を目標に、産科チームと密に連携しながら迅速な対応を実現しているほか、無痛分娩にも対応しています。

心臓血管外科領域では、CABGや弁置換術に加え、大動脈瘤などの大血管手術にも積極的に取り組んでいます。重症心不全センターを併設し、年間約10例の体内式左室補助人工心臓（LVAD）植え込み術を行っており、心移植適応患者への高度な麻酔管理経験を積むことが可能です。2022年度からは小児心臓外科手術が開始され、2025年度には約80例の小児心臓外科手術の麻酔を行い、小児循環器麻酔にも深く関わることができます。

また、当院では腎移植・肝移植・心移植に対応しており、2025年度からは肺移植も4例実施されました。移植医療の麻酔という、極めて専門性の高い領域においても実践的な経験を積むことができます。

そして、当院のもう一つの大きな特色が、麻酔科主導のClosed ICUである「外科系集中治療部（SICU）」の存在です。SICUでは2025年度には年間2,135例の重症患者を受け入れています。その約半数が術後症例ですが、残りの半数は敗血症、ARDS、肺炎、急性腎障害といった重症疾患であり、集中治療を要する重症病態に広く対応しています。麻酔科医が中心となって診療を行うClosed ICU体制をとっており、術後管理だけでなく、感染症・呼吸循環不全・多臓器不全などの集学的治療を通じて、高度な重症病態の管理スキルを身につけることができます。

麻酔科専攻医は3～6ヶ月間のSICUローテートが可能で、集中治療専門医の取得を目指す場合には、必要に応じてさらに研修を継続することができます。多職種連携を重視したチーム医療が行われており、医師としての視野を広げながら、麻酔＋集中治療の二本柱でのキャリア形成が可能です。

さらに、週3回のペインクリニック外来および入院管理も行っており、慢性疼痛や神経ブロック、がん性疼痛に対する介入など、麻酔関連領域にも幅広く対応できる力を養うことができます。

名古屋大学医学部附属病院麻酔科は、手術麻酔にとどまらず、集中治療、移植医療、小児・産科・心臓外科麻酔、ペインクリニックといった多岐にわたるフィールドで質の高い教育と実践の場を提供しています。豊富な症例数と充実した指導体制のもと、将来の専門医・指導医を目指すために最適な研修環境を整えています。

【藤田医科大学病院】

研修プログラム統括責任者：中村　智之

研修実施責任者：	中村　智之　（麻酔、集中治療）
専門研修指導医：	山下　千鶴（麻酔、集中治療）
	原　嘉孝　（麻酔、集中治療）
	小松　聖史（麻酔、集中治療）
	川治　崇泰（麻酔、集中治療）
専門医(FD講習受講)：	古賀　恵里（麻酔、ペイン）
	永田　麻里子（麻酔、集中治療）
	鈴木　紳也（麻酔、集中治療）
	藤原　凌（麻酔、集中治療）

麻酔科認定病院番号　104

―施設の特徴―

1. 国内トップクラスの手術件数・麻酔件数を誇り、一般的な疾患の麻酔管理から小児、ロボット支援下手術、移植手術（肺移植、肝移植、膵腎同時移植、膵単独移植、腎移植）、心臓血管外科手術（TAVIを含む）など特殊な病態・稀な疾患の麻酔管理まで幅広い研修が可能である。
2. 全年齢・全科対応のgeneral ICUを麻酔科医が管理している。急性血液浄化療法、ECMO、経空腸栄養、急性期呼吸リハビリを積極的に実施しており、重症患者に対する集中治療の研修が可能である。麻酔と集中治療を共に「侵襲制御」と考え、術後

ICU管理も含めたシームレスな術中・術後の全身管理を研修可能である。術中麻酔管理だけでなく、幅広い分野で活躍する麻酔科医の育成に努めている。

3. 敗血症など院内急変患者の対応だけでなく、院外からも重症小児救急、心臓血管外科疾患の救急、体外式膜型人工肺（ECMO）による治療を要する重症呼吸不全、重症肝不全などを受け入れており、これら超重症救急患者に対する充実した研修が可能である。
4. ECMO car、Drヘリを用いた重症患者の搬送を麻酔科医が主体となって行っており、ECMO transportの研修も可能である。
5. ペインクリニック外来にて超音波ガイド下末梢神経ブロックの研修も可能である。
6. 麻酔科医によるMET（Medical Emergency Team）を構成して、院内急変の対応を行なっており院内救急の初期対応などの研修も可能である。麻酔・集中治療・救急以外の分野でもInfection control teamやNutrition support team、医療安全など、院内の横断的な組織にも麻酔科医が積極的に関与している。

【あいち小児保健医療総合センター】

研修実施責任者：　宮津　光範
専門研修指導医：　宮津　光範（小児麻酔、小児集中治療、医療経済学）
山口由紀子（小児麻酔、産科麻酔）
加古　裕美（小児麻酔）
渡邉　文雄（小児麻酔、小児心臓麻酔、心臓エコー）
青木　智史（小児麻酔、小児集中治療、臨床倫理）
北村　佳奈（小児麻酔、小児心臓麻酔）
一柳　彰吾（小児麻酔、QI）
川津　佑太（小児麻酔、シミュレーション教育）
専門医：　中野　晃輔（小児麻酔、心臓麻酔）
森下　博隆（小児麻酔）
澤田　健　（小児麻酔）
手﨑　貴友（小児麻酔）
麻酔科認定病院番号：1472

ー施設の特徴ー
すべての外科系診療科がそろっている東海北陸地方唯一の小児専門病院である。
＜当センターの強み＞
A. 概要
小児病院出身のエキスパートから直接指導が受けられる。指導医によるバラつきを極力減らすために制定された「標準手順書」に従って丁寧な指導を行う。標準手順書は最新

のエビデンスに基づき毎年アップデートされている。急激に進む少子化の中にあっても麻酔件数は例年並を維持している。小児麻酔技術の習熟に最適な短時間手術が多く、短期間で効率よく経験を増やすことができる。MRI・CTなどの手術室外鎮静も麻酔科医が行っている。希望者は分娩時鎮痛（無痛分娩）に関与することもできる。

B. 独自の教育システム

高機能・高忠実度マネキンを用いた先進的な麻酔シミュレーション、スタッフによる系統レクチャーおよびケースカンファランスを効率的に組み合わせた独自の教育プログラムを実践している。英語の教科書を使った症例ベースの勉強会をフェロー主体で行っている。スタッフはアドバイザーとして参加する。

C. 小児心臓麻酔

新生児症例を含む複雑心奇形の心臓外科手術症例が増加中であり、症例数は東海北陸地方で最多である。当センターは心臓血管麻酔専門医認定施設であるが、心臓血管麻酔専門医が複数名在籍する小児病院は全国でも稀である。フェローは3ヶ月経過後から心臓麻酔研修を開始する。3Dコンピュータグラフィックスを利用した経食道心エコー教育を導入している。センター内に3台の小児用EXCORを保有しており、心臓移植待機目的のLVAD管理を積極的に実施している。

D. 学術活動

臨床研究や論文執筆を含む研究指導にはとくに力を入れている。論文執筆時にはスタッフが責任をもってサポートするが、執筆は強制されない。名古屋大学医学部連携大学院を小児センター内に併設しており、当センターで勤務しながら「PhD; 博士（医学）」の学位取得が可能である。その他の学位取得実績としては、「MPH; 公衆衛生学修士（専門職）」、「MBA; 修士（経営学）」などがある。大学院授業の履修に支障がないように配慮された柔軟な勤務が可能である。

E. PICU

麻酔科はPICUの運営には直接関与していないが、希望者はPICU研修が可能である。東海北陸地方最多である16床のPICUは、麻酔科出身者を含む小児集中治療科専属医師らによりclosed運営されている。術後だけでなく救急経由の入室も多く、小児ECMOは全国トップクラスの症例数と成績を誇る。

F. 小児救命救急センター

ドクターヘリ搬送およびドクターデリバリー（当センター医師をヘリで派遣）が増加傾向であり、愛知県だけでなく岐阜県や三重県からも広く小児重症患者を集めている。

【日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院】

研修実施責任者：横田 修一
専門研修指導医：横田 修一　（麻酔、ペインクリニック）
小栗 幸一　（麻酔）
冨田 貴子　（麻酔）
北尾 岳　（麻酔、心臓血管麻酔）
森 玲央那　（麻酔、ペインクリニック）
内山 沙恵　（麻酔、ペインクリニック）
村瀬 洋敏　（麻酔）
専門医：土師 初美　（麻酔）
柴田 黎　（麻酔）
角田 翔太郎　（麻酔、心臓血管麻酔）
風間 有香　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：420

―施設の特徴―
名古屋市西部の中核病院であり、三次救命救急センター・総合母子周産期医療センターも併設されているため、一般救急、産科救急、新生児の麻酔研修症例が豊富です。
心臓麻酔については、症例数は県内有数であり、ハイブリッド手術室も完備しているため、最先端のTAVIの麻酔も日常的に行っております。
JB-POT合格者も多数在籍しており、術中の経食道心エコーの指導を熱心に行っております。また末梢神経ブロック専用のエコー機器を5台完備、エコーガイド下末梢神経ブロックも積極的に行っています。

【独立行政法人地域医療機能推進機構　中京病院】

研修実施責任者: 浅野　貴裕

専門研修指導医: 藤岡　奈加子

浅野 貴裕

森 俊輔

宇都宮　志織

横地　佑磨

友成 祐里

稲見 真由

日本麻酔科学会認定病院取得（認定病院番号:930）

ー施設の特徴ー

1. 当院では麻酔科管理症例が約 3000 例と多く、小児、心臓を含む幅広い手術を行っている。
2. 小児先天性心疾患に対する手術とともに成人心臓外科手術も行っており、心臓血管麻酔専門医認定施設である。
3. 名古屋医療圏の基幹病院であり救急救命センターに多くの緊急手術を必要とする患者が来院し、特に重症熱傷の患者が近隣地域より搬送され、その全身管理を学ぶことが出来る。
4. 末梢神経ブロックや硬膜外麻酔の区域麻酔を活用した麻酔管理を実践しており、その技術、知識、症例経験を積むことが出来る。
5. 集中治療科専門研修施設であり希望があれば研修が可能である。

【春日井市民病院】

研修実施責任者:名原　功

専門研修指導医:　名原　功（麻酔、心臓麻酔、集中治療、臨床研究）
山崎　諭（麻酔、集中治療）
三宅　健太郎　（麻酔、集中治療、臨床研究）
末永　大介　（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
鈴木　帆高　（麻酔、心臓麻酔、集中治療）
野崎　裕介　（麻酔、心臓麻酔、集中治療）
清水　礼佳　（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
栗本　恭好　（麻酔、集中治療）
池田　暁彦　（麻酔、心臓麻酔）
村山　誠弥　（麻酔、集中治療）
木下　純貴　（麻酔、集中治療）
浦野　福恵　（麻酔、心臓麻酔、集中治療）
稲垣　諒将　（麻酔、集中治療）
服部　裕樹　（麻酔、ペインクリニック）

麻酔科認定病院番号:822

施設の特徴:

「楽しく論文を書いてみませんか？」

2025 年度から、麻酔科専門医プログラムにおいて、専攻医の専門医取得要件に論文執筆が必須となりました。当科には京都大学公衆衛生大学院修了の臨床研究・EBM の専門家が 2 名在籍しています。

論文執筆や学会発表には、それぞれの「コツ」や「お作法」があります。仕組みを一から理解し、適切な指導を受けることで、将来自らが指導医となった際に後輩を導ける確かなノウハウを身につけることができます。専門医取得の際に論文作成が必須となったことでハードルはやや上がりましたが、私たちのノウハウを活用すれば、「誰でも」「簡単に」「楽しく」論文を書くことが可能です。例として、2 ヶ月で企画からアクセプトまで至った実績もあります（英文誌）。

10. 最大の強みは「教育」です。良い臨床医になるためのプロセス、必要事項を言語化し、適度な症例数、適正な労務管理の元、経験豊富な指導医が「考える臨床医」の育成を行います。
11. 麻酔科医に必要な麻酔はもちろんのこと、集中治療、心臓麻酔、EBM（論文の読み方、使い方）、学会発表、症例報告などの知識、経験、お作法を「系統的に」、「短期間で」、その道の専門家から直接指導で、習得することが出来ます。
12. 専攻医の自主性を重んじており、「ニーズに合わせて」資格取得のための勉強会や、系

統的な講義、院内限定の秘伝のノート共有など、専攻医の成長を促す工夫があります。
13. 外科系のほぼ全てのすべての科の手術があるため、専門医研修で必要とされている特殊症例の麻酔件数は全て自院で経験可能になっています。
14. 日本集中治療医学会の集中治療専門医研修施設です。
15. 救命救急センターを有しており、救急外来から ICU までの周術期管理をシームレスに学ぶことができます。循環器内科の症例も含め、内科系の重症患者も管理します。
16. 希望者には学会発表、症例報告、臨床研究など英語、日本語問わず、一から指導します。
17. 疲弊しない労務環境の維持を徹底し、個人の well-being を第一に考えています。

【愛知医科大学病院】

研修実施責任者: 野手　英明
専門研修指導医: 野手　英明 （麻酔、心臓麻酔、集中治療、ペインクリニック）
梶浦　貴裕 （麻酔、小児麻酔）
村松　愛　（麻酔、集中治療、周産期麻酔）
稲垣　友紀子（麻酔、集中治療）
髙橋　徹朗 （麻酔、集中治療、ペインクリニック）
佐藤　航　（麻酔、集中治療）
中村　健人 （麻酔）
岡本　さくら（麻酔、集中治療）
上甲　利南 （麻酔）
鳥居　麻衣 （麻酔）
貞利　隆文　（麻酔、集中治療）
麻酔科認定病院番号:99

<u>愛知医科大学病院の専門医育成の理念</u>
理念
麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。
② 麻酔科専門医の使命
麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の

患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは専門研修基幹施設（以下基幹施設とする）である愛知医科大学病院を中心として、専門研修連携施設（一宮市立市民病院、名古屋掖済会病院、江南厚生病院、桑名市総合医療センター、中京病院、名古屋第二赤十字病院、あいち小児保健医療総合センター、総合大雄会病院、名古屋徳洲会総合病院、総合病院聖隷浜松病院、トヨタ記念病院、春日井市民病院、豊田厚生病院、津島市民病院院）（以下連携施設とする）からなる麻酔科専門研修プログラムです。

各研修施設の特徴を生かしたカリキュラムにより集中治療、ペインクリニック、小児麻酔、心臓手術、外傷手術（熱傷を含む）などを経験することも可能である。また、術前、術中だけでなく術後の回復までを見通した周術期管理を行うことのできる施設で、術後管理や集中治療を含めたより質の高い研修を行うことができる。ペインクリニック外来での研修を通して、がん性疼痛や慢性疼痛の診療を体験することができる。本専門研修プログラムでは麻酔科領域専門研修プログラム整備基準に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医の育成に努める。

専門研修プログラムの運営方針

プログラム運営方針

研修施設及び各施設での研修期間に関しては、原則として研修プログラム統括責任者と専攻医の面談の上決定する。麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成するために、様々な職場環境や症例を経験できるよう複数の研修施設での専門研修を行うことを推奨する。研修内容・必要経験症例などの研修状況を半年に 1 回の頻度で確認し、プログラムに所属する全ての専攻医が研修期間 3 年間で必要経験数を達成できるようローテーションを構築する。3 年目以降には各専攻医のキャリアプランにも配慮した研修内容を提供できる環境にある。教室全体として JRACE, JBPOT, 麻酔専門試験などの認定試験の試験対策・勉強会などを行い資格の取得をバックアップしている。

取得可能なサブスペシャリティ

集中治療専門医　　心臓血管麻酔専門医*　　ペインクリニック専門医**

*について、小児心臓麻酔症例は中京病院で経験可能である。

**2024 年度からがん性疼痛に対する神経ブロックなどの診療も開始している。

【大阪母子医療センター】

症例数

小児(6歳未満)の麻酔	2122例
帝王切開術の麻酔	421例
心臓血管手術の麻酔	331例
胸部外科手術の麻酔	13例
脳神経外科手術の麻酔	62例

研修実施責任者:	竹下　淳(小児・産科麻酔)	
専門研修指導医:	竹下　淳(小児・産科麻酔)	
	川村　篤(小児集中治療)	
	濱場　啓史(小児・産科麻酔)	
	増茂　薫(小児・産科麻酔)	
	阪上　愛(小児・産科麻酔)	
	西垣　厚(小児集中治療)	
専門医:	征矢　尚美	(小児・産科麻酔)
	桒畑　綾香	(小児・産科麻酔)
	佐伯　淳人	(小児・産科麻酔)
	井川　大輝	(小児・産科麻酔)

麻酔科認定病院番号:260号

ー施設の特徴ー

小児麻酔と産科麻酔に関連するあらゆる疾患を対象とし、専門性の高い麻酔管理を安全に行っている。代表的な疾患として、胆道閉鎖症、胃食道逆流症、横隔膜ヘルニア、消化管閉鎖症、固形腫瘍(小児外科)、先天性水頭症、もやもや病、狭頭症、脳腫瘍、脊髄髄膜瘤(脳神経外科)、複雑心奇形(心臓血管外科・小児循環器科)、口唇口蓋裂(口腔外科)、小耳症、母斑、多合指(趾)症(形成外科)、分娩麻痺、骨欠損、多合指(趾)症、膀胱尿管逆流症、尿道下裂、総排泄腔遺残症(泌尿器科)、斜視、未熟児網膜症(眼科)、中耳炎、気道狭窄、扁桃炎(耳鼻科)、白血病、悪性腫瘍(血液・腫瘍科)、帝王切開、無痛分娩、双胎間輸血症候群(産科)などがある。さらに、小児では消化管内視鏡検査や血管透視、MRI などの検査の麻酔・鎮静も、麻酔科医が行っている。

【埼玉県立小児医療センター】

研修実施責任者:　蔵谷　紀文

専門研修指導医:　蔵谷　紀文　（麻酔・小児麻酔）
濱屋　和泉　（麻酔・小児心臓麻酔）
古賀　洋安　（麻酔・小児麻酔）
伊佐田　哲朗　（麻酔・小児麻酔）
小嶋　大樹　（麻酔・小児麻酔）
大橋　智　（麻酔・小児麻酔）
駒崎　真矢　（麻酔・小児麻酔）
高田　美沙　（麻酔・小児麻酔）
坂口　雄一　（麻酔・小児麻酔）
藤本　由貴　（麻酔・小児麻酔）
鴻池　利枝　（麻酔・小児麻酔）

専門医:　影山　翔一　（麻酔・小児麻酔）

認定病院番号　399

ー施設の特徴ー

研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されています。小児集中治療の研修も可能です(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。さいたま新都心駅と北与野駅からペデストリアンデッキで直接アクセス可能です。

麻酔科管理症例　3908例（2025年度）

専攻医の採用方法と問い合わせ先

①　採用方法

専攻医に応募する方は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2026 年 8 月頃を予定）志望の研修プログラムに応募して下さい。

②　問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは,日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院のウェブサイト、電話、e-mail，郵送のいずれの方法でも可能です。

■　日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院ウェブサイト

http://www.nagoya2.jrc.or.jp/

■　〒466-8650　愛知県名古屋市昭和区妙見町 2-9

■　TEL：052-(832)-1121　　FAX：052-(832)-1130

■　事務局

教育研修推進課　恒川　美智子

E-mail：education@nagoya2.jrc.or.jp

または

本プログラム統括責任者

麻酔・集中治療部長（麻酔部門）　寺澤　篤

E-mail：nagoya2.anes@gmail.com

3.　麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①　専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになります。具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となることを目標にします。

1）十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能

2）刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力，問題解決能力

3）医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度，習慣

4）常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する項目が到達目標になります。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために、別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動に関する項目が、経験目標になります。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できませんが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができます。

4. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた、1）臨床現場での学習，2）臨床現場を離れた学習、3）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得します。

5. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成します。

- 専門研修 1 年目

  手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA1～2 度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

- 専門研修2年目

  1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理や ASA1～2 度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

- 専門研修 3 年目

  心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医の指導のもとに、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

- 専門研修 4 年目

  3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

6. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録します。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡されます。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行ないます。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させます。

② 総括的評価

- 研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定します。

7. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件になります。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われます。

8. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

- 専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出します。評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務があります。

- 研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有します。

9. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行ないます。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれます。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとします。休止期間は研修期間に含まれません。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して 2 年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなされます。
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められません。ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認めます。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をします。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できます。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができます。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要があります。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認めます。

10. 地域医療への対応

- 医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解します。

11. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告します。 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。